

# 「し」の識別

①「し」の活用形が連体形なら「し」は過去の助動詞「き」の連体形

・道済みちなり、信明さねあきらといひ連用ひ体言①歌よみの孫にて、

(||道済は信明といった歌人の孫であって)

②なくても意味が通じる「し」は強意(副助詞)  
↓接続助詞の「ば」と呼応して「…し…ば」  
の形をとることが多い

※強意の「し」がでるのはほとんど和歌の中

・あられ降る交野かたのの御野みののかり衣ぬれぬ

宿かす人しなければ(||宿を貸す人がいないので)

〈「宿かす人なければ」で意味は通じる〉

烏帽子



狩衣

指貫

- ③ サ変動詞「す」の連用形（代動詞）ある・  
いる・行く・来る・言う・する・作る・書く・  
思う・聞く etc.)

※文節の初めにきて、下に連用形接続の助詞・助動詞があることが多い

・長能ながたうは、蜻蛉の日記したる人のせうと、

（||長能は、蜻蛉の日記を書いた人（藤原道綱母）の弟で）

cf.「しも」「し」は副助詞・「も」は係助詞（意味は強意）

・などかくしもよむ（強意）↓「しも」をどかしても  
意味は変わらない

（↓などかくよむ||どうしてこのように詠むのか）